

父の戦争体験記出版

劣悪な生活環境つづる

けいゆう病院(横浜市西区みなとみらい)の非常勤医師で藤田保健衛生大学教授の堤寛さん(58)は愛知県豊明市で、父親の戦争体験を編集した著書「父たちの大東亜戦争」を自費出版した。堤さんの父・康宏さん(89)が戦時中に派遣された海外での劣悪な生活環境の様子などがつづられている。(松村 祐介)

けいゆう病院の堤さん

戦争の「生き証人」の高齢化が進む中、「父の体験を形にしてあげたかった」

と堤さん。昨年、知人らを集めて康宏さんの戦争体験を語る会を開催し、その内容や資料などを基に、堤さんがまとめた。

横浜市内に住んでいた康宏さんは召集令状を受け取った後、横須賀重砲兵連隊に入隊。その後一等兵としてシンガポールやスマトラ島の熱帯雨林で終戦までの2年間を過ごした。激しい

戦いはなかったものの、酷暑の中、アメーバ赤痢やマラリア、ツツガムシ病などを発症。ジャングル生活を生き抜いた終戦後も1年半、捕虜として抑留されたという。

堤さんは「父のように過酷な環境下で過ごした人はたくさんいる。戦争を底辺から見ることができると話す。1300部発行で、全国の書店で販売。税別1500円。

9月5日にはJICA横浜国際センター(横浜市中区新港)で、堤さんと康宏さんの親子対談イベントも開かれる。問い合わせは、NPO法人「地球市民ACTかながわ」☎045(622)9661。

8・15 夏
戦後65年の夏



21歳当時の父の写真を掲載した著書を手にする堤さん